養育のあり方が青年期のウェルビーイングに与える影響

○西川里織

(広島大学大学院医歯薬保健学研究院)

キーワード：精神的健康，養育，青年期

Influence of Perceived Parental Style on Adolescent Mental Health

Saori NISHIKAWA

(Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University)

Key Words: Mental Health, Parenting, Adolescence

目 的

近年，思春期・青年期における不登校や引きこもりなどの社会問題には個人の自己制御能力の問題，家族関係などの環境要因，また発達障害を背景とするケースもあると報告されている。その中で，幼少期からの養育体験は，主に成長後のパーソナリティや精神疾患（抑うつ，人格障害など）といった個人の精神的健康との因果関係から注目されてきた。本研究では，親の養育態度が青年期の愛着スタイル，自己概念，メンタルヘルスにどのように影響しているのか調べた。

方 法

研究対象者：193名の健常な高校生（男子143名と女子50名，平均年齢=16.4歳）を対象とした。

手続き：研究協力者は本研究に関する説明を受けた後，質問紙に回答をした。質問紙は，①YSR（ユースセルフレポート）を用い，8つのメンタルヘルス尺度（気分の落ち込み・不安，攻撃性，思考の問題，注意力の問題，非行，身体の問題，ひきこもり，社会性の問題）を調べ，さらに，内向的（引きこもり，気分・不安）と外向的（非行や攻撃性）の2つの尺度とトータルプロブレム（全得点）も測定した。次に，②EMBU-Cを用い，両親の養育態度（a.心理的暖かみ，b.拒絶，c.過干渉，d.心配性），③SDQII（Self Description Questionnaire-II；自己概念調査票）では a.アカデミック得点（学業に関する自己概念）と b.ノン・アカデミック（自尊心や人との関係性）の得点，そして④AQ（Attachment Questionnaire；愛着尺度）では友人に対する愛着を測定し，各尺度のメンタルヘルス得点との関連性を調べた。

結 果

T 検定（paired-sample t-test）によると，子どもは父親より母親の方が過保護（ $p < .05$ ）と感じているが，父親よりも母親から拒絶感（ $p < .001$ ）を高く受けているのと同時に，心配されている（ $p < .001$ ）と感じていると結

果が出た。養育では女子が男子に比べ母親からの拒絶を強く感じており（ $p < .05$ ），メンタルヘルスの面では，女子の方が男子よりも不安・落ち込み，社会性の問題，注意力の問題，攻撃性の得点が高いという結果が出た（全て $p < .05$ ）。

相関分析では，父親と母親の過保護さ，拒絶感，心配性尺度は優位に内向的問題と外交的問題と相関していた（ r s between .19 and .38，全て $p < .01$ and .05）。男女別々に解析をすると，女子が男子に比べ養育態度尺度とメンタルヘルス問題の尺度の相関が高い傾向が見られた。さらに，父親と母親の拒絶感は自己概念尺度（アカデミック，ノンアカデミック）と逆相関していた（ r s = -.22 and -.20，全て $p < .01$ ）。

PLS(Partial Least Squares) 回帰分析では，不安定な愛着（回避型と躊躇型）と，親からの拒絶感が高校生の内向的・外向的問題を予測するという結果が得られた。ノンアカデミック・セルフ尺度（感情的，社会的，身体的自己）については，内向的・外向的問題の両方が予測された。

考 察

本研究では，両親からのネガティブな養育態度は子どもの精神的健康に影響を及ぼし，そしてその関連性には，親と子どもそれぞれの性別に応じて違った影響力があることが示唆された。母親の尺度の得点が，父親の尺度の得点に比べて高いことは，日本における父親と母親の子どもへの関わり方の違いが反映される。また，親からの心理的なサポートはどこの国の若者にも欠かせないものであるが，養育態度の文化的背景も心にとめておく必要があることが示唆された。特に，若者の自分自身の認識，対人関係，そしてメンタルヘルス問題は，それぞれ相互に影響し合っているので，養育のあり方が，どのようにメンタルヘルスや対人関係と関連しているという観点が，青年期の教育また臨床治療でも重要であることが示唆された。